

境港外港地区沖防波堤の完成に向け最後のケーソン据付を行いました

令和4年6月28日～30日の3日間にかけて、境港外港地区で整備中の沖防波堤において、最後となるケーソン据付工事を行いました。

昭和43年に着手されたこの防波堤整備は、日本海側に面し波の影響を大きく受ける外港地区において港内の静穏を保ち、荷役作業や航行船舶の安全を確保することを目的として開始しました。今回、新たに3函のケーソン据付を行い、全291函のケーソンからなる、全長3850mの日本海側で2番目に長い防波堤となりました。

引き続き、必要な高さを確保するための上部コンクリートの打設と、波の力を弱めるための消波ブロックの設置を行い、今年度中の完成を予定しています。

【作業工程】

- ①陸上で製作したケーソンを起重機船で吊り上げます。(今回のケーソンは鉄筋コンクリート製で約400トンの重さがあります。)
- ②ケーソンを吊り上げたまま据付箇所まで運搬します。
- ③微調整を行いながら所定の位置へ据え付けます。

〈ケーソンとは〉

防波堤や岸壁をつくる際に使われる鉄筋コンクリートや鋼製の構造物
フランス語で“大きな箱”という意味

〈防波堤とは〉

外洋から押し寄せる波の影響を弱め港内(防波堤の内側)を静穏な状態に保つ構造物

